

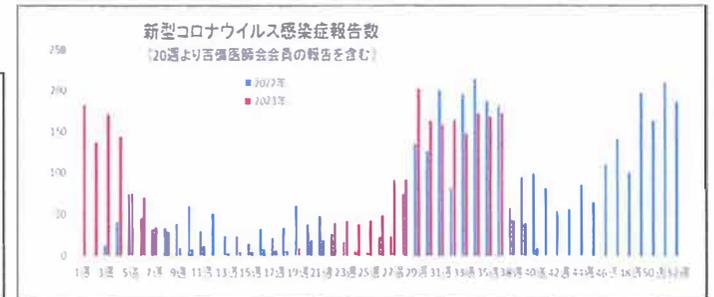
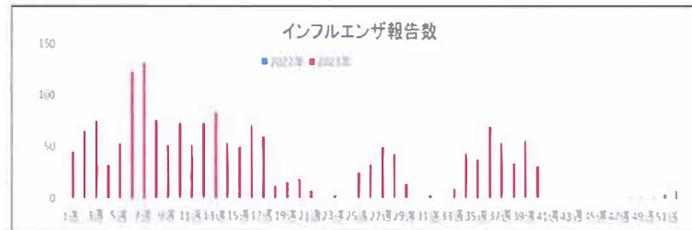
# 週間感染症情報

2023年37-40週 2023年9月11日より2023年10月8日まで

37週 38週 39週 40週

麻疹				
風疹				
水痘(みずぼうそう)				
ムンプス(おたふくかぜ)				
百日咳				
溶連菌感染症	14	5	10	4
手足口病	1	1	4	12
ヘルパンギーナ	3	2	4	1
伝染性紅斑				
感染性胃腸炎	19	15	19	17
ロタウイルス(再掲)				
便アデノウイルス(再掲)				
突発性発疹	1	1	1	3
伝染性膿痂疹(とびひ)	4	4		2
ヘルペス性口内炎				
アデノウイルス感染症	1	5	4	5
RSウイルス感染症				
マイコプラズマ感染症				
ヒトメタニューモウイルス	10	8	9	6
インフルエンザ	53	34	56	31
インフルエンザ A	52	34	56	30
インフルエンザ B	1			1
新型コロナウイルス感染症	108	43	39	9

遅くなりましたが37-40週の4週間分の報告です。右下のグラフの様に、コロナは38週より減少して9波はやっと終息したようです。また、左下のグラフの様に、インフルエンザは毎週30~50例前後の報告があります。ほぼA型ですが、B型の報告もでてきました。37週より、こども園から始まったインフルエンザAの流行は家族内感染で中央小学区に広がっていきました。今年のインフルエンザの流行は、市内全体の大きな流行にはならず、ダラダラと続いています。4月は総社小、5月は東小、6月・7月は清音小・常盤小、8月・9月は山手小・中央小学区で小流行となりました。今は小康状態ですが、今後寒くなるにつれて、再びコロナとインフルエンザの同時流行が予想されます。XBB.1.5対応の新しいコロナワクチン接種が開始されています。6か月以上のすべての方が無料で接種できます。小児は軽症のことが多いですが、患者さんが多いと重症になる例も出てきます。小児は、半数近くが未感染でワクチンを受けていません。特にこの冬は小児での流行が心配です。小児のワクチンは抗原量が少ないので大人と違い高熱例はほとんどありません。インフルエンザワクチンの接種も始まりました。どちらのワクチンも、感染・発症・重症化予防効果がある程度期待できます。コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種ができますし、2週間の間隔を明ける必要がありません。特に高齢者、リスクの高い方、乳幼児の方は接種を検討して下さい。感冒症状の小児が増えています。RSウイルス感染症は減少してヒトメタニューモウイルス感染症が増えています。寒くなり、嘔吐を主とするノロウイルスによると思われる胃腸炎をみかけるようになりました。体調不良の場合は休み、手洗い・換気に努めて下さい。密な環境ではマスクの着用をぜひお願いします。公共交通機関でのマスクの着用もお願いします。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> )